

今週の活動から



5月17日(日)厚木中央公園で2015ピースリレー厚木市民平和行進が開かれました。参加者は約140人。公園での出発集会には厚木市長代理で福祉部次長が市長のメッセージを紹介しました。また、国民平和行進(東京・夢の島から広島まで、「核兵器廃絶、ノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキ」を訴えて行進)の神奈川県内通し行進者の紹介も。公園から本厚木駅、中央通りをデモ行進しました。その後、ミニコンサート、プラカードコンクールがありました。(左:釘丸久子議員・右:栗山香代子議員)

もやいネットセンター

高齢者を「支え」「つなぎ」「守る」

市民福祉常任委員会
5月12・13日
山口県周南市



周南市議会の議場。右上の四角はテレビ画面。議場後ろにも2面あり、理事者もテレビ画面を見ることができる。

周南市は2003年(平成15年)4月、徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町が合併した市です。市の名前は「周防の国」の南側に位置する所から。市域は656平方キロメートル、厚木市の7倍の面積です。

高齢者人口が4万4千人、29.8%もいて、高齢者対策は重要課題でした。

高齢者の孤立死・孤独死を防ぐために2013年、市役所高齢者支援課内に「もやいネットセンター」を8名の職員体制で立ち上げました。そのうち専門職は保健師・社会福祉士等6名を配置しています。

「支え」「つなぎ」「守る」をモットーに、高齢者やその家族を

厚木市議会市民福祉常任委員会では、5月12・13日に山口県周南市の高齢者総合相談窓口「周南市もやいネットセンター」について視察してきました。釘丸久子議員が参加しました。

支え、必要に応じて関係者や関係機関とつなぎます。介護施設や医療機関、地域包括支援センター、警察署、消防署などです。

もやいネットセンターとは、①24時間365日相談受付、②数多くある高齢者の相談窓口を一本化、③相談に応じて各関係機関につなぐものです。平日の昼間は市役所内で受け付け、土日・休日・夜間は受託機関が受け持ちます。

センターの相談件数は昨年度は月平均210件。話し相手や近隣トラブル(33%)、介護保険・福祉サービス(26%)、虐待・DV(14%)、認知症相談(13%)などで全体の88%を占めます。

来月1月の仮庁舎移転後は、総合福祉センターとして、高齢者だけでなく障害者、子ども、生活困窮者などの相談も幅広く受けられるようにしたいと担当者は語っています。

地域の見守りの輪も

市の社会福祉協議会では、地域の高齢者の見守り活動拠点として、各地区社協に「もやい地区ステーション」を設置することをめざし、現在は17地区で、福祉コーディネーターを20人配置しています。1地区あたりの訪問対象者は約33人、訪問件数は延べ6125回にもなります。

訪問活動をする中で、安否確認や生活課題の早期発見ができ、孤独の防止などにも効果があります。

市立の動物園と美術館が

次の日は、周南市議会事務局の案内で、市立動物園と美術館を見て回りました。

周南市は1945年5月と7月の徳山大空襲で市域が壊滅的被害を受けました。戦後復興の時、将来のまちづくりを考えて、道路を広くとったそうです。ゆったりとした道路に高木が茂り、走っていても風が涼しく感じます。

動物園は旧徳山市の市制25周年の1960年(昭和35年)、徳山藩主毛利氏の屋敷があった場所に開園しました。園内には樹木が茂り、散歩しながら動物たちと触れ合えます。

旧徳山市は、昨年104歳で亡くなった詩人のまどみちおさんの生誕地。徳山駅では「1年生になったら」「ぞうさん」のメロディーが流れています。美術館にはまどみちお特設コーナーもあり、市民に慕われている様子がよくわかります。

視察を終えて

昔のような「お隣・近所」の関係が薄れ、高齢化が進む中、いかに地域のつながりを取り戻すかが、これからの大きな課題です。

そのシステムを行政が主導で作る、住民組織や事業者などと連携して進めるといふ、今後の高齢化を見据えた方向性が見えてきた感じを持ちました。